

発刊にあたって

このたび、東日本大震災による東海村における震災の体験を風化させないため、また、新たなまちづくりや防災計画の一助とするため、震災記録集を発行する運びとなりました。

発行に際しまして、住民の方、学生と保護者、学校関係者、自治会関係者、事業者等たくさんの方々から、それぞれの視点の震災体験を数多くお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

さて、平成23年3月11日に発生した東日本大震災は未曾有の大災害となりました。東海村は震度6弱の地震に襲われ、電気・上下水道・ガス等のライフライン機能が停止、道路や家屋の損壊が発生したほか、津波による耕地の冠水や、学校教育施設、コミセン等社会教育施設も損傷し、使用停止を余儀なくされる等、全域にわたって甚大な被害を受けました。

このような中、東海村には数多くの個人、団体、自治体から支援が届けられましたことは感謝に堪えません。

90もの個人、企業、自治体等から水、食糧、生活用品、衣料品、燃料等、心温まる支援物資をご提供いただきました。災害復旧寄付金においては、多数の団体、個人より1億円を超える援助を頂戴いたしました。道路をはじめ河川堤防や社会教育施設などの本格的な復旧や東京電力福島第一原子力発電所事故による放射能汚染対策には時間がかかりますが、一日も早く復旧・復興できるよう全力で努めてまいります。

また、今回の災害では、3月11日には村内15ヶ所の避難所に全村民のおよそ10%に相当する3,514人が避難する事態となりました。このような非常事態において、村民の方々を中心となって避難所を運営され、続々と避難してこられる近隣住民の安全を確保された行動力と使命感には敬服いたします。

また一方で、苦しく辛い時にも相手を尊重し思いやりのある村民の皆様の行動があったからこそ、パニックに陥ることなくこの苦難を乗り越えることができたに違いありません。

東日本大震災は、地震、津波、そして原子力発電所事故という複合的災害であり、防災計画における多種多様な課題を浮き彫りにしました。また同時に、人と人とが手を取り合い助け合うことで、コミュニティの結束を生み出しました。そして、今後発生しうる災害に対する地域防災の在り方を再検証するためにも、これらの経験で得られた知恵や教訓を埋もらせることなく、広く共有し、具体的な形で備えに繋げることが大切であり、この震災記録集がその道標となることを期待しております。

最後になりましたが、東日本大震災にて犠牲となられた皆様に対し、深く哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。



東海村長 村上達也